

「大きくなったつどい」への対処が課題

9/19(土) 37 名参加

会場:クリニックふれあい早稲田

これまでで一番多くの方が参加されました。初めに大場先生のミニレクチャー。

アルツハイマー病は脳内のアミロイド蛋白が沈殿するためと言われているが、それを防ぐには、野菜中心の食事で青魚がよい、運動し、趣味を持つことが良い。緑茶を飲んでいる人はなりにくいという調査結果もある、などと話されました。

自己紹介の後 2 つのグループに分かれましたが、それでも人数が多く、話が充分にできなかった方も多いように感じました。

● Aさん:90 歳の母を見ているが、2、3分おきに同じことを聞いてくるので、だんだんイライラして、ついには身体の中がワナワナしてくる。趣味で気を紛らわせているが、24 時間拘束されていて、母の視線がずっと自分に向いていることに耐えられない。

(多くの方が頷いていました)

● Bさん:若年性認知症の父を 6～7 年見ている。嚥下ができなくなり胃ろうにする話が出ているが迷っている。

(後で、大場先生に個別に相談しました)

● Cさん:自分もう 79 歳で、妻を見ている。前は途方に暮れていたが、大場先生のデイケアに通うようになってずいぶん元気になった。デイでは、料理を手伝ったり他の方の車椅子を押したりしている。

(みなホッとしました)

後日、つどいに初めて参加した方から事務局にファックスが届きました。一部を紹介します。

私の母もアルツハイマー型認知症、介護 2 で、いろいろな症状がありますが一番こたえるのが尿失禁です。私が初参加で感じたことは…、

- ・男性の参加者が少ない。
- ・介護するものは、被介護者の軽度・重度を問わず、同じ辛さを持っている。
- ・自分と同様な介護者がいない(自分が感じているだけかも)
- ・現在かかえている悩みを具体的に解決するためのアドバイスがほしい(介護者ごとに対応が必要)
- ・閉会時にバラバラになる感じがむなしい。

(このファックスに対して電話相談員が返事を書き、支部報、入会案内を同封して入会を勧めました)